

5/6

米軍のカンボジア侵略、北爆糾弾、政府の侵略加担を許すな

5.7 緊急 市民集会 (P.M. 6:30 扇町公園)

5/6 12:30 210 抗議集会
7 12:30 学生集会

学友のおきこみ

①

アメリカのニクソン大統領は、カンボジアへの軍事進攻を開始すること、
即ちすくにも公然と宣言した。ニクソンはその演説で、東南ベトナムにおけるア
メリカ軍人の生命を守るため、⁽¹⁾徹兵計画をすすめる、⁽²⁾平和を達成するため、⁽³⁾
カンボジア侵略はよく、カンボジアを侵略している「共産軍」にたいして、
たいへん悪いという、二重にも三重にもギマン的な主張を行なっている。
もちろん、ベトナムへの侵略行為を行ってきたのはアメリカ軍であり、彼らが
一手にアジアの平和を脅かすついでにニクソン。アメリカは、その侵略野望の下に、
カンボジアの軍事クーデターを指揮し、カンボジア人民の民族主権を侵し、ロ
ン・ノル一族に大虐殺を行わせた、さらに今回、カンボジア人民の正義のたたか
いに対して新たな侵略拡大にのりだすこと、これがこの事態の本質である。
侵略者がこの侵略の利益を守るためという口実で侵略を拡大する力が歴史的な
常こう手段であり、最も犯罪的な強盗の論理である。

アメリカは自ら、破壊した「平和の守り手」を装っている。しかし、彼らは、
「平和の守り手」の下に、ベトナム侵略を拡大し、ベトナム人民を虐殺し、また朝鮮半島
では北朝鮮に対する新たな攻撃行動をすすめるなど、侵略政策を一貫してとりつ
づけてきた。さらに今また、カンボジア人民の殺人にのり出そうとしている、わ
れわれはこのニクソン演説を断固として糾弾しなければならぬ。

今回の米軍の行動によって、アメリカのインドシナにおける侵略は新たな歴史
的段階に入った。彼らのカンボジア侵略を容認し、さらにインドシナ全域への拡
大を容認すれば、アジアの世界の平和にたいして重大な事態を招くことになるであ
ろう。これは、全世界の平和と民主主義を愛する人たちが決起しなければならぬ
問題である。

②

更に重要なことは、日本政府は早くもこのニクソンの侵略的措置に賛成の意を
示し、日本共産党声明路線にもとづいて、この積極的加担を行なおうとしている、
ことである。佐藤内閣政府は、インドシナが提唱したカンボジア問題に関す
るアジア会議に積極的に参加し、「アジアの主役」として、アジア人々アジア
人とたたかわせる「アメリカの侵略政策に賛成して、協力しつ
づけている。こうしたなかで、自覚的民主勢力の手がいは、
アメリカのアジア政策の重要な支柱である日本安保体制の新たな
強化の策動の環として打ち出された日本共産党声明策変路線
を糾弾する課題と、政府のカンボジア侵略加担糾弾の手がいは
結合され、安保条約廃棄、沖縄即時無条件全面返還の全人民的
斗争を更に発展させ、我々が広大な統一戦線を促進させ、更に
平和の民主主義を愛する人民との連帯を強化し国際的なソートナ
ム人民・インドネシア人民支援の統一戦線を促進すべきこと
に、その照準を当てなければならぬ。 5/6

全学連支持会議